

翔友XXIX から 翔友30へ

今年から、タイトルナンバーの表記をローマ数字からアラビア数字に変更した。

航空部は1986年（昭和61）、創部50周年を迎え、その記念事業の一つとして年史が発行された。それが「翔友 一同志社体育会航空部50年誌一」である。そして翌年早々、50年史に収録出来なかった祝賀会の様子や、記念事業の収支報告をするために続刊として「翔友II」が発行された。従ってこの号も副題は、一同志社体育会航空部50年誌一である。

実は、「翔友」はこの2刊でその使命を終わるはずであった。ところが、OB会誌として継続発行を望む声が多く、しからばという事で、1988年（昭和63）、副題を一同志社大学航空部誌一と改めた「翔友III」が全OBへ届けられた。

以降、今日まで、途切れることなく航空部の歴史を記録しつつ年一回発行されて、今年30号の節目を迎えることになった。「翔友XXX」となるころ、これを機会に「翔友30」と変更することにした。理由は、ローマ数字での表記は、段々と長くなって収まりが悪くなってきたことと、分かりにくくなったからである。31はXXXIで何とか分かるが、41となるとXLIと表記することになり、読める人の方が少なくなってくるであろうと危惧するからである。肝心の編集長が40以降のローマ数字表記が出来ない有様である。

見慣れるまで、表紙に違和感が漂うと思うが、ご寛容とご理解を願う。

—編集長—

